

孟子鈔

梁惠王上

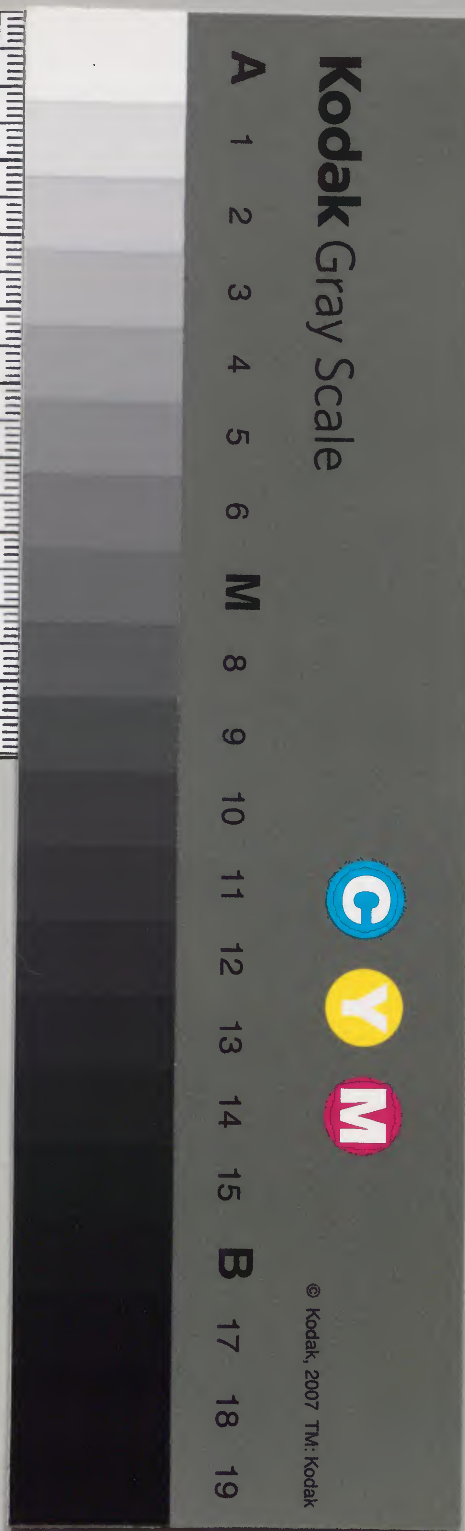
和書門類			
二	四	五	三
六	六	一	三
冊	架	函	號

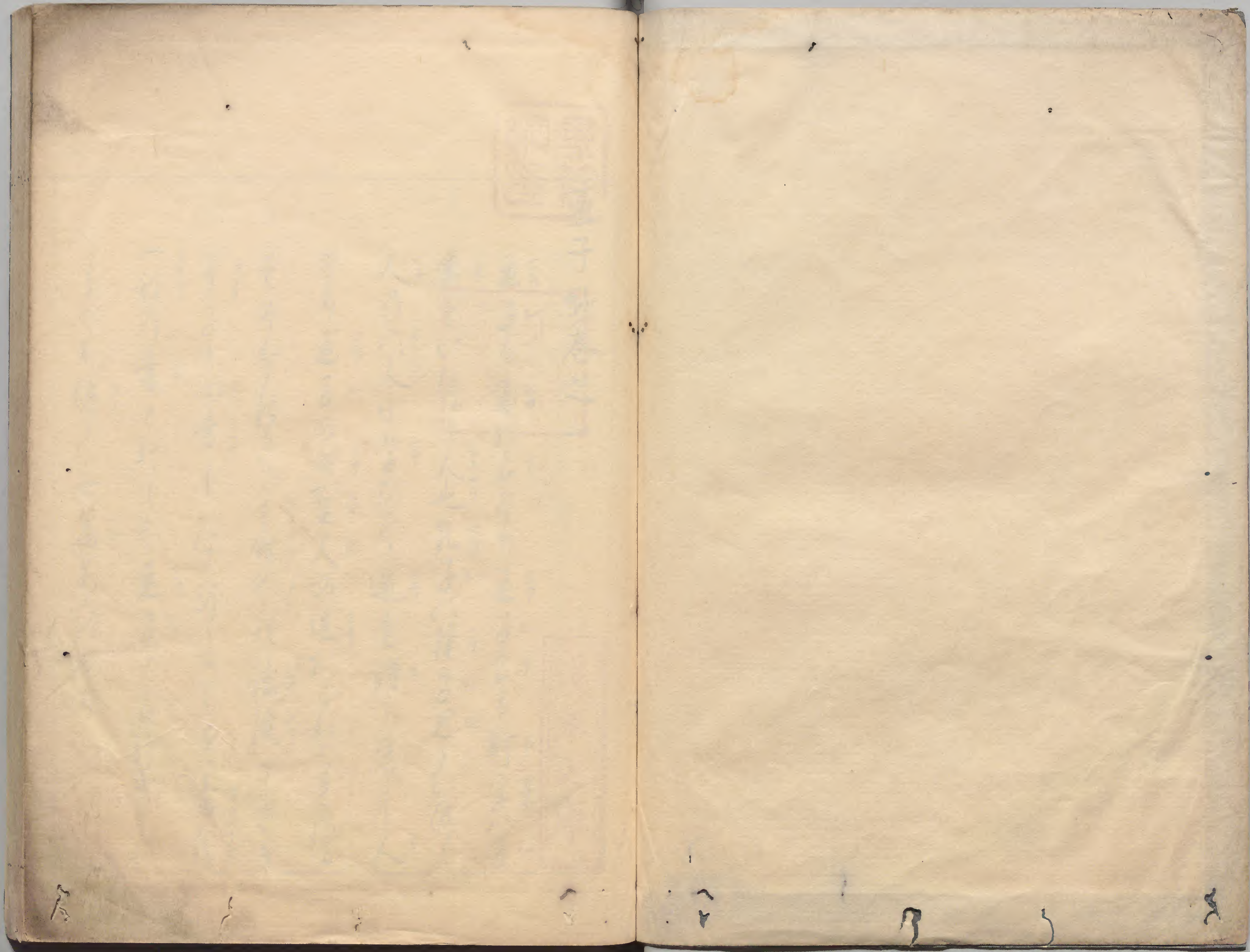
內閣文庫		
九	二	和
函	四	書
一	一	
五	四	
架	冊	號

內閣文庫	
番號	和 24513
冊數	24 (11)
函號	191 267

廿六号

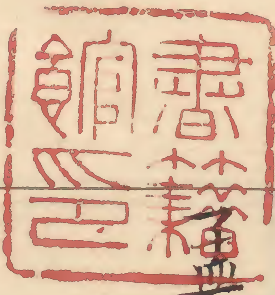
共十三卷





Small rectangular stamp or seal, likely a library or collection mark, located on the upper right of the left page.

Vertical text or markings on the left page, possibly bleed-through from the reverse side, including the character '子'.



子針卷之

孟子ミナシの書シヨは名ナなり。孟子ミナシ名ナと軒カ字ジハ子シ輿ヨといひ。人ヒト也。孔子コウシは孫ソク子思シといひ。



淺草文庫

人ヒト乃ナラ門カド人ヒト小コ学ガクびく。道ミチを得エらる者モノ一人ヒト

なり。孟子ミナシの時トキ。聖人セイジンの道ミチたゞこれとせしむる

をたゞせしむる。その時トキ分ワケれ諸侯シヨウコウす。其ソノ時トキ

孟子ミナシと曰イハふ。一ヒトの書シヨを載カキす。其ソノ時トキ

一ヒト部ブ乃ナラ書シヨと名ナす。孟子ミナシと名ナはしむる

一ヒトなり。總スベて七シチ篇ヘンあり。其ソノ時トキ

梁惠王章句上

此書れ初の字をとりて名はきり

なり。女と上下にまじりて

趙破注を一章句をてしめ

紙教おかくならゆい小

小のけく上下とせしなり

孟子見梁惠王

梁惠王とて侯爵なり。名を梁とて

王とて魏の國に居たり。大梁と

り。下に居らばゆい梁とて

子れ事を多にむく。使者を

禮物をたらし。禮法はく

きりゆい。孟子梁へゆ

ひりなり。

王曰。叟不遠千里而來。亦將有以利吾

國乎。

叟を年よりたのむ人を

小のけく也。利を利得れば

萬乗之國弑其君者必千乘之家千乘
之國弑其君者必百乘之家萬取千焉
千取百焉不為不多矣苟為後義而先
利不奪不廢

萬乗此國也天子之國軍設小車萬乘
出以形也子系此也也諸侯乃國車
子系出以形也百乘也諸侯此大夫の
車百乘を出以形也萬取千子取
百也天子も萬乗なり諸侯もそれ

うらよき子系うらよき大夫を
諸侯も系れうらよき百乗も然なり

○利の志も法乃を專にせば万乗
の之れ天子をば子系うらわれ諸侯が弑
し子系とわれ諸侯をば百乗とす乃
大夫が弑もやうにならべし諸侯ハ天子
萬乗れうらよき子系とあり大夫ハ子系
の諸侯れうらよき百乗とれば十分の
うらよきひもなり

多きを多く多きなり。義ギなりんを
ハコカシの分ブンをやらん。事コトよく職シヨク事を
勢セツじ勢セツにニいイはハれレてテ義ギを
とトりリ先サキ小コ事コトのノ事コトを
こコとト上ウれレをウらラひヒらラんン事コトを
たタらラんン事コトあアらラんン事コトを
うウらラんン事コトにニいイはハれレてテ利リをウらラんン事コトを
きキ事コトとトれレてテ

未イミ有アラ仁ニ而シテ遺ス其ソノ親シヤ者モノハ也ナリ。未イミ有アラ義ギ而シテ後ノチ其ソノ

君キミ者モノハ也ナリ

にニあアるルババ親シヤをウらラんン事コトをウらラんン事コトを
親シヤをウらラんン事コトをウらラんン事コトを
君キミ誠マコト大オホ切キうウらラんン事コトを
なりナリ一ヒト國クニにニ人ヒトがガくクれレてテ忠チウをウらラんン事コトを
忠チウをウらラんン事コトを
あアやヤらラんン事コトを
利リをウらラんン事コトを
忠チウとト義ギとトいイはハれレてテ

王亦曰仁義而已矣何必曰利

右れ通つてやれハ王とて尚ほに義れ事

を乃も宜ふべし何とく利れ事とを

宜ふんやとあり

○孟子見梁惠王王立於沼上顧鴻雁

麋鹿曰賢者亦樂此乎

鴻と雁れ久きものをりひくひれ

ふとやれ麋と大なる麋の事也○孟

子梁れ惠王より問えたりぬれは

婦一惠王沼れ不とりり居たまひ

が鴻雁麋鹿乃類を以て見んぬに

るげや〜おひて問てい〜これや

やん事と賢者なはたれ〜ことば

せぬ〜とあり〜賢者をぬ〜こと

をたれ〜むやと也

孟子對曰賢者而後樂此不賢者雖有

此不樂也

出れたれ〜こと賢徳あり人〜樂め

不賢なるもこれ。これ。と。く。なるたけ。
 心。身。に。拘。あ。つ。と。く。と。好。き。れ。し。
 一。心。を。と。る。く。は。と。なり。

詩云。經始靈臺。經之營之。庶民攻之不
 日成之。經始勿亟。庶民子來。王在靈囿。
 麋鹿攸伏。鹿濯濯。白鳥鶴鶴。王在靈
 沼。於物魚躍。文王以民力為臺為沼。而
 民歡樂之。謂其臺曰靈臺。謂其沼曰靈
 沼。樂其有麋鹿魚鼈。古之人與民偕樂。

故能樂也。

詩云。詩經大雅靈臺。此篇なり。經ハ臺
 の立ヤリを工吏の事なり。營ハ造作
 する。たけ。を。り。靈臺。文王。の
 の名なり。靈。神。靈。れ。の。不
 思議。なる。事。早。達。出。衆。
 た。の。ゆ。へ。なり。不。白。は。一。日。の。事。に。ぬ。を
 り。麋。鹿。を。女。志。の。事。麻。を。男。志。の。事。
 濯。ハ。肥。の。事。は。れ。に。を。り。鶴。を。り。

多く。治れやうと。我見たる。へば。びたる。
イテ ウホ イテ
 是に。莫。ご。り。が。治。一。とい。ふ。を。ら。く。た。と。
イテ
 是。あ。が。に。て。た。れ。く。お。れ。と。れ。り。
コトホ シ キヤウ ブンワクタイ ソノ
 此。通。つ。し。詩。經。い。い。つ。も。文。王。を。や。國。や
イテ ツラ シモ タミ
 治。を。作。つ。た。な。ふ。を。な。れ。く。下。れ。民。乃
チカラ ツラ ヨシ
 力。を。く。作。つ。た。ま。ふ。ハ。庶。民。を。み。ら。う。
カハツ タミ
 じ。を。び。た。ら。ふ。さ。も。な。く。し。て。却。く。民
ソノ タイ ナ
 ごと。く。な。ら。ふ。び。た。れ。み。く。を。を。を。名。
レイ タイ ソノ イテ
 治。を。く。ハ。靈。臺。とい。ひ。を。治。を。い。い。く。ハ。

靈。治。とい。ひ。く。結。搦。を。ら。名。を。治。を。刻。へ。
レイ タイ ケツ ニウ ナ コト コト
 糜。麻。莫。覺。れ。行。舟。く。あ。は。事。を。た。れ。
シ イニ ヒ コト ブン ワク
 多。く。詩。小。治。く。ま。り。これ。を。い。や。う。な。れ。
タミ コト ワガ ミ ウ
 とも。た。て。が。く。あ。る。と。い。ふ。古。れ。人。文。王。を。
ク ク ヤニ アン ラク
 若。し。て。何。と。せ。安。樂。に。お。ら。や。う。に。と。
チウ ヤ コロ トク
 道。を。治。れ。乃。を。を。ん。か。き。く。徳。を。か。こ。に。
ミ リ ア ト
 政。を。く。そ。を。小。く。わ。く。民。を。食。も。た。り。て。
タ イ シヨク
 た。れ。め。ば。治。れ。を。第。一。た。れ。み。せ。

行ひ鐘カニふ。ふれ民タニと樂タシを回カニふ。さる也。
リふ。れなり。せれけい。小下シモの民タニと上カニれ
君キミれたれ。みたさふ事コトを。身ミのうへ
のやうに。たれ。さる。び。也。

湯誓曰。時日害喪。予及女偕。民欲與

之。偕。止。雖有臺池鳥獸。豈能獨樂哉。

此後。さ。不。賢。れ。者。は。た。れ。し。事。お。う。は。る
事コトを。い。へ。し。湯。誓。を。書。經。の。篇。乃。名。也。
殷。れ。湯。王。夏。の。樂。王。を。不。治。ほ。次。に。

尻シラ小チカ物コトひ。言コトバなり。何ナニ日ヒを。樂ケツと。指サス樂ケツ
王ワウを。大タイ愈イ王ワウなり。ほ。さ。く。い。し。れ。る。事コトハ
天ツカ下テニヤれ。ま。と。なり。く。行ユクる。こ。は。天ツカり
日ヒれ。あ。る。か。こ。も。天ツカ乃。日ヒ不。る。ひ。は。が。く。る。川カハ。
日ヒ乃。何ナニも。か。た。つ。て。ハ。不。る。ゆ。り。こ。を。さ。あ。は。れ
ゆ。ぐ。と。い。へ。し。唐。氏。樂。王。れ。を。道。を。悪クく。
そ。を。法。を。と。り。て。い。へ。ふ。さ。こ。れ。日ヒ古。い。川カハ。
そ。が。へ。き。さ。う。も。命イノチを。ま。さ。て。そ。が。ふ
も。れ。さ。う。は。は。は。は。小トモ不。る。び。る。ん。と

いへり。さくく止。た記ゆにかくいへり。
これ通。庶民あはれもく。命をせり。
ま。さくく。にやりとも減。止。はせたく
行。さうに成。た。は。た。と。地。多。歎。れ
た。ら。ひ。乃。た。れ。み。小。成。を。れ。り。と。く。と。
な。く。ひ。り。樂。し。事。は。か。の。海。と。也。

○梁惠王曰。寡人之於國也。盡心焉耳。
矣。河内凶。則移其民於河東。移其粟於
河内。河東凶。亦然。察鄰國之政。無如寡

人之用心者。鄰國之民不加少。寡人之
民不加多。何也。

寡人。と。寡。ハ。少。也。徳。れ。く。や。記。を。寡。人
と。名。諸。侯。と。身。を。卑。下。して。不。辭。なり。
河。内。河。東。ハ。梁。れ。國。の。下。れ。名。なり。凶。を。凶。
年。れ。と。形。り。子。穀。不。出。來。り。て。民。飢。小
た。ぶ。を。り。不。惠。王。と。下。れ。民。を。め。ら。し。事
を。自。海。して。い。へ。る。と。鄰。國。を。た。さ。し。ら
事。ハ。随。分。な。れ。た。を。法。は。く。して。精。出

山へ入らばはらいさじに木をぬえたを
 さりらして山あはれもれ也此れゆへ
 草木れ葉のむらたむら分に入らば木を
 切やうにむらと萌葉れ類を伐くそむら
 けへ木たぐさんふなりそむらけむら
 木ぬむらにならむれなりこれ通ふそむら
 あまむらたれ民今日のそむらむらやむら
 やむらむらむら死後れ事むらむらむら
 けむらむらむらむら残むらむらむらむら

五畝之宅樹之以桑五十者可以衣帛
 矣。雞豚狗彘之畜無失其時七十者可以
 食肉矣。百畝之田勿奪其時數口之家
 可以無飢矣。謹庠序之教申之以孝悌
 之義。頒白者不負戴於道路矣。七十
 者衣帛食肉黎民不飢不寒然而不王

畜味之有也

子畝^ホれ^{タラ}宅^{モリシヤク}を百姓一人^{ヤシキチ}も^ホれ^ホ屋^{ヤシキチ}浦^ホ北^ホ二^ホ畝^ホ
半^{ハシ}を^{ハシ}田^{ハシ}小^{ハシ}あ^{ハシ}り^{ハシ}二^{ハシ}畝^{ハシ}半^{ハシ}を^{ハシ}居^{ハシ}屋^{ハシ}爰^{ハシ}小^{ハシ}り^{ハシ}
なり^{ハシ}帛^{ハシ}ハ^{ハシ}さ^{ハシ}ぬ^{ハシ}也^{ハシ}雞^{ハシ}を^{ハシ}小^{ハシ}ハ^{ハシ}り^{ハシ}豚^{ハシ}ハ^{ハシ}ぎ^{ハシ}
狗^{ハシ}を^{ハシ}い^{ハシ}ぬ^{ハシ}虱^{ハシ}を^{ハシ}め^{ハシ}ぎ^{ハシ}也^{ハシ}庠^{ハシ}序^{ハシ}ハ^{ハシ}里^{ハシ}小^{ハシ}河^{ハシ}
学^{ハシ}司^{ハシ}而^{ハシ}れ^{ハシ}名^{ハシ}なり^{ハシ}頌^{ハシ}白^{ハシ}ハ^{ハシ}羊^{ハシ}老^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}者^{ハシ}改^{ハシ}
半^{ハシ}ハ^{ハシ}白^{ハシ}く^{ハシ}半^{ハシ}を^{ハシ}黒^{ハシ}ま^{ハシ}け^{ハシ}り^{ハシ}不^{ハシ}負^{ハシ}載^{ハシ}を^{ハシ}背^{ハシ}中^{ハシ}
小^{ハシ}せ^{ハシ}を^{ハシ}ふ^{ハシ}と^{ハシ}減^{ハシ}負^{ハシ}と^{ハシ}り^{ハシ}不^{ハシ}改^{ハシ}小^{ハシ}狗^{ハシ}を^{ハシ}い^{ハシ}た^{ハシ}く^{ハシ}
を^{ハシ}載^{ハシ}と^{ハシ}り^{ハシ}ふ^{ハシ}○子^{ハシ}畝^{ハシ}は^{ハシ}ある^{ハシ}宅^{ハシ}れ^{ハシ}墻^{ハシ}れ^{ハシ}海^{ハシ}ハ

つ^{ハシ}に^{ハシ}素^{ハシ}を^{ハシ}う^{ハシ}へ^{ハシ}さ^{ハシ}せ^{ハシ}う^{ハシ}れ^{ハシ}素^{ハシ}ま^{ハシ}く^{ハシ}蚕^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}
糸^{ハシ}を^{ハシ}と^{ハシ}り^{ハシ}帛^{ハシ}に^{ハシ}ま^{ハシ}り^{ハシ}以^{ハシ}て^{ハシ}帛^{ハシ}織^{ハシ}さ^{ハシ}襦^{ハシ}は^{ハシ}
暖^{ハシ}小^{ハシ}衫^{ハシ}が^{ハシ}へ^{ハシ}ぬ^{ハシ}子^{ハシ}十^{ハシ}れ^{ハシ}者^{ハシ}帛^{ハシ}を^{ハシ}ま^{ハシ}り^{ハシ}
や^{ハシ}う^{ハシ}に^{ハシ}ち^{ハシ}り^{ハシ}へ^{ハシ}鶏^{ハシ}豚^{ハシ}狗^{ハシ}虱^{ハシ}の^{ハシ}類^{ハシ}れ^{ハシ}も^{ハシ}素^{ハシ}に^{ハシ}
畜^{ハシ}を^{ハシ}く^{ハシ}狗^{ハシ}も^{ハシ}それ^{ハシ}子^{ハシ}も^{ハシ}ど^{ハシ}う^{ハシ}み^{ハシ}そ^{ハシ}う^{ハシ}い^{ハシ}れ^{ハシ}
所^{ハシ}を^{ハシ}う^{ハシ}へ^{ハシ}さ^{ハシ}せ^{ハシ}う^{ハシ}れ^{ハシ}素^{ハシ}ま^{ハシ}く^{ハシ}蚕^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}れ^{ハシ}
沃^{ハシ}山^{ハシ}小^{ハシ}や^{ハシ}り^{ハシ}く^{ハシ}肉^{ハシ}ま^{ハシ}く^{ハシ}を^{ハシ}食^{ハシ}ら^{ハシ}ば^{ハシ}彼^{ハシ}を^{ハシ}じ^{ハシ}肉^{ハシ}
く^{ハシ}お^{ハシ}も^{ハシ}ぬ^{ハシ}七^{ハシ}十^{ハシ}れ^{ハシ}者^{ハシ}肉^{ハシ}を^{ハシ}食^{ハシ}ら^{ハシ}り^{ハシ}や^{ハシ}り^{ハシ}く^{ハシ}
そ^{ハシ}う^{ハシ}へ^{ハシ}百^{ハシ}畝^{ハシ}は^{ハシ}を^{ハシ}と^{ハシ}り^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}田^{ハシ}北^{ハシ}也^{ハシ}

刺人而殺之曰非我也兵也王無罪歲
斯天下之民至焉

殺を制し止る事也。餓死者無死人なり。
發を食をひらひて民をさうふことなり。

○惠王王政を以て民をさうふ事と
せど。拘羸を人のさうふをさうふておさ
せし。物を制しやめ事をして以て遠く

餓死ししるをこれあまも倉廩を用ひし
かどことと事をもさう人か餓死

○梁惠王曰寡人願安承教

の民が、おりの物さへもいなり。
はとあおこかとも隣国をけりて天下
の民が、おりの物さへもいなり。
いふことおれ、事なり。今よりわら五穀
いなりと。罪を罪小か。はさくは五穀と
はとあおこかとも隣国をけりて天下
の民が、おりの物さへもいなり。

これぞをくまふ人^{フボ}がくまふ事^{キミ}とせむ^{キミ}。
いんや民^{タミ}をや^{フボ}な^{フボ}父母^{フボ}たる君^{キミ}の政^{キミ}
を^{キミ}あ^{キミ}く^{キミ}を^{キミ}引^{キミ}け^{キミ}き^{キミ}也^{キミ}。これぞをく^{キミ}
け^{キミ}く^{キミ}。孔子^{フボ}曰^{フボ}。人^{フボ}をく^{キミ}は^{キミ}む^{キミ}のや^{キミ}
り^{キミ}を^{キミ}く^{キミ}を^{キミ}ほ^{キミ}ぬ^{キミ}れ^{キミ}ぬ^{キミ}也^{キミ}。これぞ民^{タミ}の君^{キミ}
たる父母^{フボ}も^{フボ}く^{フボ}は^{フボ}む^{フボ}に^{フボ}なり^{フボ}。

仲尼^{フボ}曰^{フボ}。始^{フボ}作^{フボ}備^{フボ}者^{フボ}。其^{フボ}無^{フボ}後^{フボ}手^{フボ}。為^{フボ}其^{フボ}象^{フボ}人^{フボ}
而^{フボ}用^{フボ}之^{フボ}也^{フボ}。如^{フボ}之^{フボ}。何^{フボ}其^{フボ}使^{フボ}斯^{フボ}民^{フボ}饑^{フボ}而^{フボ}死^{フボ}也^{フボ}。
仲尼^{フボ}も^{フボ}。孔子^{フボ}れ^{フボ}字^{フボ}なり^{フボ}。備^{フボ}を^{フボ}葬^{フボ}乃^{フボ}と^{フボ}に^{フボ}

同^{フボ}ド^{フボ}や^{フボ}に^{フボ}棺^{フボ}へ^{フボ}入^{フボ}ふ^{フボ}た^{フボ}め^{フボ}小^{フボ}木^{フボ}を^{フボ}用^{フボ}て^{フボ}く^{フボ}ら^{フボ}へ^{フボ}
た^{フボ}り^{フボ}人^{フボ}死^{フボ}れ^{フボ}や^{フボ}く^{フボ}く^{フボ}を^{フボ}ど^{フボ}あ^{フボ}つ^{フボ}く^{フボ}く^{フボ}也^{フボ}。
や^{フボ}ら^{フボ}く^{フボ}に^{フボ}く^{フボ}く^{フボ}に^{フボ}く^{フボ}。これ^{フボ}が^{フボ}人^{フボ}死^{フボ}と^{フボ}く^{フボ}
や^{フボ}り^{フボ}これ^{フボ}を^{フボ}云^{フボ}上^{フボ}古^{フボ}を^{フボ}没^{フボ}衛^{フボ}と^{フボ}く^{フボ}葬^{フボ}す^{フボ}也^{フボ}。
人^{フボ}乃^{フボ}死^{フボ}を^{フボ}く^{フボ}ら^{フボ}へ^{フボ}棺^{フボ}に^{フボ}く^{フボ}葬^{フボ}す^{フボ}也^{フボ}。
中^{フボ}古^{フボ}以^{フボ}來^{フボ}人^{フボ}死^{フボ}に^{フボ}は^{フボ}か^{フボ}く^{フボ}也^{フボ}。由^{フボ}こ^{フボ}く^{フボ}人^{フボ}乃^{フボ}
や^{フボ}り^{フボ}に^{フボ}あ^{フボ}る^{フボ}も^{フボ}れ^{フボ}を^{フボ}葬^{フボ}ふ^{フボ}に^{フボ}く^{フボ}也^{フボ}。孔子^{フボ}も^{フボ}れ^{フボ}
これ^{フボ}に^{フボ}を^{フボ}く^{フボ}く^{フボ}を^{フボ}宣^{フボ}ふ^{フボ}也^{フボ}。備^{フボ}を^{フボ}く^{フボ}
め^{フボ}く^{フボ}く^{フボ}ら^{フボ}へ^{フボ}た^{フボ}り^{フボ}も^{フボ}れ^{フボ}も^{フボ}子^{フボ}孫^{フボ}な^{フボ}く^{フボ}して^{フボ}

後をたゆべりトシテなり。其後とはあもれ
 たゆぶをりコラシ。孔子がこれたゆぶモテハ人小
 しく似るをれを用ひたるゆい也モテ。ひに
 似る人形を作ニギヤウツツハシメ葬ハツカリにハツカリ
 しくココそれゆ乃木にをフジみフタニみフタニかフタニくフタニ宣フタニ
 へエト人乃君キミるをれも。此民を不便フタニカ
 するゆい小いフタニか小フタニとしてフタニかくフタニうフタニて死フタニむフタニる
 かりはせフタニてフタニとフタニなり。

○梁惠王曰。晋國天下莫強焉。叟之所

知也。及寡人之身。東敗於齊。長子シス死焉。
 西喪地於秦。七百里。南辱於楚。寡人耻シ
 之。願比シ死者一酒之。如之何。則可。

此の國の魏乃地を晋れり。りたるの
 かりゆい小晋といへり。莫強とは此上り
 出るは此の國をり。と云事なり。長子ハ
 太子シシ。死をモテ。世に代り。ヒト
 太子申なり。死者を代の人也。○晋れ
 國をり。めち地廣く鋒銳して。天下トコ
 上に出るつ。此國をり。事。孟子の

ほめぬ父母に事ふる者長上小事の情の
事といづれやい川を流るる美実なりすべ
きものよふも然にさああさうかにして合志
らるやうなり。おれゆへ小内へ入てる父兄も
うつつかへおへ出くるるに似たり年満する
おれゆへの上なる人小事も何事か
流るる君れ恩を感し父兄小身が
子もまた川を流るるを流るる河事ぞ
出来らる河は君のさあ父兄れためなり。

命をたらしまはたなりかへ。さうは何れ
大國は秦楚の軍兵どもれ皆甲を被利
兵をもらたりさあ。故をうらへてさう

彼奪其民時使不得耕耨以養其父母
父母凍餓兄弟妻子離散

救をうらへてさうも秦楚に利兵をうらへ
じべりらるるは波秦楚の國乃君をに政を
もたさるる民を氣拂にはかあり

料作の何カウサリをうトキてタミ民たクナやフボ一コト葉を
 さらコトもフボなコトるコトはコトれコトゆコトへコト小コト穀物コトをコト不生
 来コトしてコト父母コトをコトしコトるコトはコトしコト事コトをコトるコトはコト父母コトを
 凍コトへコト素コト子コトをコトらコトすコトはコトくコト小コトをコトりコトるコト目コトを
 あコトくコトらコトもコトぬコトやコトうコトにコト誰コトれコトもコトのコト也コト此コト河コト流コトは
 何コトもコト他コト一コト日コトれコト命コトをコトたコトるコトをコトりコトたコトらコトさコトとコトいコトの
 子コトはコトりコトるコト者コト情コト忠コト信コトれコト道コトをコト修コトるコトは
 薄コトきコトなコトらコトれコトゆコトへコト上コトをコトうコトやコトすコト事コトもコト父コト兄コト小
 かくコトらコトもコトもコトるコトはコトるコトなりコト

彼カレ陷ヤレ溺デキス其ソノ民タラシ王ワ往ユキテ而セ征バ之コト夫ノ誰ナニ與ト王ワ敵トキ

陷カレとカレもカレあカレるカレへカレ入カレるカレ事カレなりカレ溺カレとカレもカレあカレるカレへ
 行カレくカレ事カレ也カレ上カレれカレ通カレつカレるカレはカレ彼カレ國カレに
 君カレをカレ下カレすカレ乃カレ民カレをカレ反カレたカレるカレへカレ行カレく
 いカレまカレ水カレれカレ中カレへカレつカレ記カレたカレるカレはカレ次カレ回カレ前カレ乃カレ去カレるカレなり
 此カレ時カレ流カレるカレはカレ國カレにカレ君カレのカレ恩カレをカレ感カレじてカレ上カレを
 親カレとカレ君カレをカレ大カレ切カレ小カレしカレるカレ民カレもカレもカレをカレ引カレくカレる
 先カレ乃カレ君カレれカレ民カレをカレじカレうカレるカレはカレ形カレれカレあカレる
 一カレとカレ紙カレ云カレたカレるカレはカレ証カレ成カレすカレはカレ先カレ乃

天地統として。雲にほくたふり。沛然と
あくる。角つよく。婦の附を。かきかつ。ことなる。尚
みんかに。おこさく。いさく。と。な。は。な。り。
此らに。小。これ。な。人の。い。は。く。と。な。り。と。め。
やし。事。ハ。な。る。ぬ。なり。これ。と。これ。天
ト。此。君。たる。者。民。を。あ。は。れ。じ。な。れ。なく。
人。の。ひ。と。は。救。を。し。を。こ。の。め。ら。う。ら。と。し。
一人。よ。く。し。人。を。め。ぐ。み。民。を。救。は。る。事。を
も。ぬ。者。あ。ら。ハ。早。に。あ。ひ。た。る。者。は。あ。れ。る。は。

乃。う。む。と。く。領。を。引。て。地。を。の。ぞ。み。く。
君。と。せ。ん。事。を。祿。が。へ。一。が。く。は。と。く。あ。ら。ハ。
水。れ。下。き。西。へ。流。れ。や。う。に。沛。然。と。盛。り。て。
婦。を。た。と。む。し。事。ハ。な。る。海。が。き。と。也。
○ 齊宣王問曰。齊桓晋文之事。可得聞
乎。

小。王。を。た。ひ。と。ひ。夷。狄。を。と。く。ふ。い。ひ
小。王。を。た。ひ。と。ひ。夷。狄。を。と。く。ふ。い。ひ
小。王。を。た。ひ。と。ひ。夷。狄。を。と。く。ふ。い。ひ

そごてあぐふを云うれとく民れと成。
いかにけく安樂にそくやうにそくのそり。
○宣王問く曰人君れ徳をいりやううて
まるとなるべしやとれり。孟子答く曰人乃
君とる者。下れ民を不便かり。吾れ
はくし。乃そくやうにそくの事。孟子を保じ
んやうにそくは天下れ民自然と均服し
き。不とにまるとなるべしと也。
曰。若寡人者。可以保民乎哉。曰。可。曰。何

由知吾可也。曰。臣聞之。胡斲曰。王坐於
堂上。有牽牛而過堂下者。王見之。曰。牛
何之對曰。將以饗鐘。王曰。舍之。吾不忍
其觶。棘若無罪而就死地。對曰。然則廢
饗鐘與。曰。何可廢也。以羊易之。不識有
諸。

胡斲を斎れ長下なり。饗鐘とは饗儀
あつに誘く成就しなり。牛とらん
る。これ血をとり。鐘れとあふに

血^キの^{コト}事^{ウニ}ハ^{ダイジ}固^バれ^{ナニ}久^{ナニ}事^{ナニ}ヲ^{ナニ}行^{ナニ}ハ^{ナニ}何^{ナニ}ト^{ナニ}シ^{ナニ}テ^{ナニ}ヤ^{ナニ}ム
也^{ナニ}。然^{ナニ}レ^{ナニ}羊^{ウシ}に^{ウシ}志^{ウシ}カ^{ウシ}ハ^{ウシ}ク^{ウシ}。此^{ウシ}羊^{ウシ}と^{ウシ}バ^{ウシ}を^{ウシ}用^{ウシ}に^{ウシ}
セ^{ウシ}よ^{ウシ}と^{ウシ}宣^{ウシ}ひ^{ウシ}一^{ウシ}事^{ウシ}あ^{ウシ}フ^{ウシ}と^{ウシ}固^{ウシ}一^{ウシ}の^{ウシ}不^{ウシ}識^{ウシ}
い^{ウシ}づ^{ウシ}る^{ウシ}れ^{ウシ}事^{ウシ}あり^{ウシ}ヤ^{ウシ}と^{ウシ}也^{ウシ}。不^{ウシ}識^{ウシ}と^{ウシ}ハ^{ウシ}存^{ウシ}セ^{ウシ}ぬ^{ウシ}る^{ウシ}
事^{ウシ}ハ^{ウシ}カ^{ウシ}と^{ウシ}リ^{ウシ}よ^{ウシ}小^{ウシ}形^{ウシ}也^{ウシ}。

曰^{ウシ}有^{ウシ}之^{ウシ}曰^{ウシ}是^{ウシ}心^{ウシ}足^{ウシ}以^{ウシ}王^{ウシ}矣^{ウシ}。百^{ウシ}姓^{ウシ}皆^{ウシ}以^{ウシ}王^{ウシ}
為^{ウシ}愛^{ウシ}也^{ウシ}。臣^{ウシ}固^{ウシ}知^{ウシ}王^{ウシ}之^{ウシ}不^{ウシ}忍^{ウシ}也^{ウシ}。
宣^{ウシ}王^{ウシ}の^{ウシ}い^{ウシ}づ^{ウシ}く^{ウシ}。成^{ウシ}不^{ウシ}ど^{ウシ}そ^{ウシ}の^{ウシ}や^{ウシ}う^{ウシ}なる^{ウシ}事^{ウシ}あり^{ウシ}一^{ウシ}
なり^{ウシ}。孟子^{ウシ}曰^{ウシ}天^{ウシ}下^{ウシ}に^{ウシ}王^{ウシ}たる^{ウシ}道^{ウシ}を^{ウシ}不^{ウシ}可^{ウシ}い^{ウシ}
たり^{ウシ}。

も^{ウシ}も^{ウシ}し^{ウシ}ふ^{ウシ}小^{ウシ}に^{ウシ}よ^{ウシ}づ^{ウシ}ん^{ウシ}半^{ウシ}を^{ウシ}報^{ウシ}ふ^{ウシ}に^{ウシ}忍^{ウシ}び^{ウシ}は^{ウシ}ら^{ウシ}
ん^{ウシ}が^{ウシ}天^{ウシ}下^{ウシ}に^{ウシ}王^{ウシ}と^{ウシ}なる^{ウシ}小^{ウシ}なる^{ウシ}也^{ウシ}。此^{ウシ}志^{ウシ}忍^{ウシ}び^{ウシ}
は^{ウシ}ら^{ウシ}ん^{ウシ}を^{ウシ}に^{ウシ}れ^{ウシ}ら^{ウシ}ず^{ウシ}也^{ウシ}。行^{ウシ}り^{ウシ}し^{ウシ}半^{ウシ}を^{ウシ}見^{ウシ}たる^{ウシ}
王^{ウシ}に^{ウシ}小^{ウシ}愛^{ウシ}する^{ウシ}也^{ウシ}。此^{ウシ}れ^{ウシ}を^{ウシ}う^{ウシ}け^{ウシ}り^{ウシ}て^{ウシ}百^{ウシ}姓^{ウシ}乃^{ウシ}
う^{ウシ}へ^{ウシ}に^{ウシ}た^{ウシ}ら^{ウシ}り^{ウシ}て^{ウシ}。氏^{ウシ}を^{ウシ}安^{ウシ}樂^{ウシ}な^{ウシ}る^{ウシ}は^{ウシ}。
此^{ウシ}れ^{ウシ}を^{ウシ}ら^{ウシ}王^{ウシ}業^{ウシ}を^{ウシ}成^{ウシ}就^{ウシ}す^{ウシ}べ^{ウシ}し^{ウシ}也^{ウシ}。た^{ウシ}ら^{ウシ}
百^{ウシ}姓^{ウシ}も^{ウシ}も^{ウシ}王^{ウシ}を^{ウシ}志^{ウシ}ら^{ウシ}ず^{ウシ}。半^{ウシ}れ^{ウシ}い^{ウシ}し^{ウシ}め^{ウシ}を^{ウシ}
行^{ウシ}み^{ウシ}る^{ウシ}羊^{ウシ}に^{ウシ}か^{ウシ}へ^{ウシ}と^{ウシ}い^{ウシ}へ^{ウシ}ば^{ウシ}も^{ウシ}孟^{ウシ}子^{ウシ}云^{ウシ}と^{ウシ}
す^{ウシ}。王^{ウシ}面^{ウシ}つ^{ウシ}牛^{ウシ}れ^{ウシ}述^{ウシ}忠^{ウシ}さ^{ウシ}う^{ウシ}なる^{ウシ}を^{ウシ}。二^{ウシ}語^{ウシ}

多に志れびぬぐ。かくあつし。と云
も。成るなり。財を入目の事也。

王曰然誠有百姓者齊國雖褊小吾何
愛一牛即不忍其觳觫若無罪而就
地故以羊易之也

小百姓れいへ通つし牛を行しやう
なり。多しれもいかに新れ國褊く小きと
一匹れ牛の入目を行しんやたぐ
それ牛のあつし。海不便なりゆ。小羊に

かへりなり。

曰王無異於百姓之。以王為愛也。以小
易大彼悪知之。王若隱其無罪而就
地則牛羊何擇焉。王笑曰是誠何心哉
我非愛其財而易之以羊也。宜乎百姓
之謂我愛也。

○百姓これ入目を行しみる。かくせりとい
海をいれ事とわたりひたさ。事なせ

羊をらヒラシいさウシ半をオホキ大なり。らヒラシいさウシにモあシと
 之のオホキあシ大なり。これヒラシ小はヒラシかシへヒラシたヒラシ是ヒラシはヒラシ減ヒラシ小
 それヒラシあシくヒラシちヒラシ入目をヒラシ行ヒラシじヒラシやヒラシうヒラシ也。五ヒラシれヒラシ殺ヒラシを
 小ヒラシ志ヒラシ好ヒラシびヒラシはヒラシるヒラシるヒラシもヒラシしヒラシりヒラシよヒラシこヒラシはヒラシ彼ヒラシ百ヒラシ姓ヒラシ等
 何ヒラシとヒラシしてヒラシあヒラシらヒラシぶヒラシもヒラシやヒラシうヒラシれヒラシうヒラシへヒラシ罪ヒラシをヒラシくヒラシして
 死ヒラシ小ヒラシはヒラシくヒラシ事ヒラシをヒラシいヒラシくヒラシとヒラシ行ヒラシふヒラシをヒラシらヒラシばヒラシ半ヒラシを
 羊ヒラシとヒラシなヒラシりヒラシ罪ヒラシをヒラシくヒラシいヒラシづヒラシれヒラシ分ヒラシらヒラシちヒラシなヒラシに
 若ヒラシなりヒラシ小ヒラシ半ヒラシをヒラシばヒラシやヒラシめヒラシくヒラシ羊ヒラシとヒラシ殺ヒラシ次ヒラシとヒラシなヒラシれヒラシば
 入目ヒラシをヒラシ行ヒラシじヒラシもヒラシくヒラシ也。百ヒラシ姓ヒラシれヒラシ五ヒラシとヒラシ行ヒラシじヒラシと

日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也
 日ヒラシ無ヒラシ傷ヒラシ也。是ヒラシ乃ヒラシ仁ヒラシ術ヒラシ也。見ヒラシ半ヒラシ未ヒラシ見ヒラシ羊ヒラシ也

君子之於禽獸也。見其生不忍見其死。聞其聲不忍食其肉。是以君子遠庖厨也。

ナシイタケイ スコシ カイ
之謂と少しと害小なりぬを云にこれ謂とい
にを以て小なりと上より下なるを云庖厨ハ産
トヨ リヤウリバ ヲフ ナイ
不れ料理場なり。○五小をスリーカハナ
百姓小なりと云ふ事をもぬかき次と
いへどもこれ少しと害にせし次。くくくかぬ
一もなり。半を羊にのみたることハ速ナリ

にを以て小なりと云ふこれ上より下なりと云ふの
なり。いかにと云ふハ半を云ふはむこく
と云ふイヤナリ。濁小血なり事と云ふ
三ト フタツ トヨ
微小ありと云ふことハ取を羊ナリ
かゆまハ二何ともいへば一かきびして一記也
モツモウシ ヒツジ ツミ
尤半を羊とも云ふに罷を斬くといへば
ウシ ヤンゼン シロ ヒツジ
半を眼前にみんくくらんに悲びも羊ハ
メ 目小んざればたをさすれは小羊ナリ
コト ニコト
かへ事ハ微小なりと云ふことナリ

禽獸を以て類と異類を以て恩を以て
 以て不とことしとす事ハ以て志ガ
 きこもれり。志の今禽獸は恩を以て
 行はれり。大切の百姓小至り及ぶる
 いくも志の事や。志れば一羽乃あが
 りしりや。あがらぬまゝハ志力を用ひて
 あげぬゆへなり。雲霧れはるハ人へ
 目をさす。眼力を用ひし事見ざるは
 なり。百姓れやんぞれぬまゝやんぞれ

ぬまゝハ志。恩澤を用ひて。行はれ
 ざるなり。これより見まはされ王と
 ぬまゝ。志のまゝハ志して。せぬ
 されなり。志のまゝハ志して。せぬ
 曰。不為者與不能者之形何以異。曰。挾
 太山以超北海。語人曰。我不能。是誠不
 能也。為長者折枝。語人曰。我不能。是不
 為也。非不能也。故王之不王。非挾大山
 以超北海之類也。王之不王。是折枝之

類也。

形を極子なり泰山と云はれ名を極する大なり
山なり北海と云はれ海より廣く為長
者折枝と云はれ海に人乃指當りし
樹の枝を以て事也。○不為者と云はれ
者と云はれ極子はいくかそりたるやと也。極子
谷よりいそく。言ふ大なる泰山を。と記す
と云ふも。北海は廣大なるを云ふ也。此
事ハ。これと云ふ事には。海を以て。志の

ふを人小なりといふ。極を不極と云ふ
事なり。海よりたる者れたなり。
樹の枝を以て事ハ。これと云ふ事
なり。志のを人小なりて曰。極ハ不極と
云はれ。今これと云ふ事。泰山を以て
北海を以て。花やうなる事なり。ハ
事なり。枝を以て。やうなる。事なり。記
事なり。

後が不逞なるゆへ。悔ふもいらぬの衆
色物目小見ふにたぬぬあるゆへ。
善業をばれ善が耳にさうにたぬぬゆへ。
悔ふも道智れ出段人のほひたぬぬゆへ
小よりく。右れ志れぐを好なく好ひ結ぶ
う。志れども此類も五れ諸長トさし。
悔れく。ふく。申。結へ。悔れ。ば。ま。し。や。こ。れ
類乃。ふ。ま。く。い。ある。悔。ぐ。も。好。り。五。答。て
い。ま。く。い。や。れ。た。め。う。く。ハ。さ。く。と。也。五。子

の曰上れ志れぐ。ま。く。を。れ。ば。五。乃。ス。リ。
欲。し。結。む。結。ぶ。事。ま。く。べ。い。五。地。を。ひ
ら。記。く。廣。く。一。秦。楚。れ。大。國。を。も。五。方。へ
来。湖。を。せ。自。身。中。國。小。ま。つ。の。ぞ。み。れ。く
ふ。な。ん。五。れ。こ。の。通。り。れ。ま。く。く。ま。く。れ
然。ち。こ。ま。く。れ。悔。ぐ。き。事。本。に。縁。上。つ。ま。く。
奥。を。た。け。結。り。と。し。ふ。と。ね。れ。ぐ。と。に。て
ま。く。く。い。れ。ふ。悔。ぐ。き。と。也。

王曰。若是其甚與。

これほどぞこれほどぞ。さうな事かと也。

曰。殆有甚焉。緣木求魚。雖不得魚。無後

災。以若所為。求若所欲。盡心力而為之。

後必有災。

殆と。これより。さうなり。字也。意をな記なり。

○やうやうとこれより。さうなり。事あり。

木にのぼりて。魚をり。し。ふ。は。奥を

ゆめと。さ。まで。海。小。笑。ハ。な。記。なり。五。れ。い。す。

き。で。れ。その。と。記。あり。さ。う。き。な。れ。通。り。れ。

大。なる。の。ぞ。み。を。と。せ。んと。せ。は。ぬ。を。ほ。く。し。

精。力。を。ほ。く。し。て。さ。う。な。れ。り。に。あ。ら。は。し。

後。小。ス。なる。笑。あ。ら。ん。と。に。木。に。縁。す。

奥。を。り。し。し。ふ。り。い。な。れ。り。と。記。也。

曰。可得聞與。

右。れ。通。り。に。笑。あ。る。さ。う。に。な。り。ま。け。は。さ。う。

事。を。得。ぬ。や。と。れ。り。

曰。鄙人與楚人戰。則王以為孰勝。曰。楚

國をホロほふべければハ笑イフと云イフふれなり。
天下れモト五とモトなりモトにモトなりモトにモトをモト行モトて
に政をモトたモトこモトふモトがモトなりモト然モトばモト五モトなんモトそ
それモト五とモトなりモトにモトたモトらモトかモトへモトしモトくモトに政を
たモトこモトふモトひモトたモトりモトはモトるモト國をモトあモトらモトせモトふモトと
未モトれモト事モトとモトれモト了モト。

今王發政施仁使天下仕者皆欲立於
王之朝耕者皆欲耕於王之野商賈皆
欲藏於王之市行旅皆欲出於王之途

天下之欲疾其君者皆欲赴愬於王其
如是孰能禦之

發政施仁は恩を政のうへに
たし出し、民に恩の心誠不ど心法を云
かくあれはに恩れたる人、人々を恩澤に
かんて服するゆへ、民皆分れ國は百姓ぞあり
小ありは、天下れ法をのぞいしれば、五乃
朝廷に法りへく、を云、きと、おし、をせ。
耕作する百姓を、五乃百姓なりと云

田をたがやうなくおひ。商買あらはれハ
五れ市のうちにかくおきく居たれとおひ。
略を以て旅人をもかく五れ境に出るやう
みたく五れ取へ来りて告祈へし。敢若て
そらひなくおもはむしふやうに自然なる
なり。かくれとくなくは。それいさおひ大あ
の行く出たれとく。たきそ物せぐ事
なり。海ど。五れは。秦楚を胡りて中國に

し乃そ海を。口夷をなでらふべし。也商ハ
よまひあつたれとく。あさびと。實を居
ながらうふもれなり。

王曰。吾惛不能進。於是矣。願夫子輔吾
志明。以教我。我雖不敏。請嘗試之。

不敏を鈍なり。○五れいよく。敢をはは
くく。道にまゝ。事う。次。敢くハ
夫子。敢をたげみらひ。

政をいさやうにニシテ仁をいさやうに行はばコト
 事コトを明白コト小行コトへらさよコト。ついで
 親なるを色コトはばコトといふコト。こゝろに
 しては、コト試コトせんコト也。
コト曰。無恒産而有恒心者。惟士為能。若民
 則無恒産。因無恒心。苟無恒心。放辟邪
 侈。無不為己。及陷於罪。然後從而刑之。
 是罔民也。焉有仁人在位。罔民而可為
 也。

恒産ツ子ノサンを一シテにコトひコト小行コトの事コトなり。恒の
 心コト。人コトこれコトなるコト若コト心也。放コトハコトめコト
 道理コト一コトをコト辟コトとコト也。
 焉コトみコト仁コトとコト也。邪コトとコト也。一コトにコト也。
 惡コト小コトなりコト。さコトもコト也。をコトシコト。侈コトとコト也。事コト乃コト
 之コト也。氣コトをコトいコトてコト人コトをコトさコトすコト也。
 〇恒ツ子のコトにコトひコト小行コトのコト也。
 恒ツ子れコト若コト心コトをコトりコトうコト。さコトもコト也。若コト心コトは
 小行コトなりコト。士コトをコトつコトひコトりコト。學コト問コトをコト

輕ヤス

明君を仁徳れ君たり。楽業を豊にたり。
凶年ハ不作の年なり。○これ明君の君たり。
民の産業を制し田疇をあるへ
と記ひひのやうにして作でる父母
事ふとららくにたり。俯しとて妻子を
やう事ふ事なり。ほひとて豊年なり。ハ
一也食物に飽満たると不作乃年なり
とて死む事なく。家をさして

逃止る事なく。女前しとて
を君に事なり。事なり。これを驅く
善かへん事し。くすにたれば自然
事なく。事なく。やとくと事なり。是
今也制民之産仰不足以事父母。俯不
足以畜妻子。樂歲終身。苦凶年不免於
死。此惟救災而恐不贍矣。暇治禮義
哉。

今也君たる者。民の産業を制し

田デ使ヂれあふへやうコニキむらまき。たゞコニキるを乃そ
 洗コニキくコニキるゆへコニキ。今日コニキれコニキるコニキ記コニキをコニキみコニキをコニキめ
 けコニキくコニキ。上コニキをコニキ父母コニキにつコニキうコニキあるコニキになコニキるコニキ改コニキ下コニキを
 妻コニキ子コニキをコニキやコニキうコニキ事コニキをコニキまコニキぐコニキくコニキ樂コニキ業コニキに
 一コニキせコニキらコニキるコニキ一コニキ年コニキふコニキ或コニキをコニキ極コニキ死コニキをコニキし
 悔コニキふコニキまコニキげコニキうコニキ事コニキをコニキまコニキぬコニキかコニキきコニキ死コニキ。これ
 一コニキもコニキくコニキなコニキれコニキハコニキ死コニキをコニキたコニキりコニキカコニキ終コニキやコニキうコニキあコニキとコニキこコニキらコニキり
 志コニキくコニキもコニキおコニキれコニキまコニキへコニキなコニキりコニキ悔コニキどコニキきコニキかコニキとコニキ。氣コニキづコニキみ
 小コニキねコニキふコニキにコニキ礼コニキ儀コニキをコニキどコニキたコニキまコニキめコニキとコニキりコニキおコニキこコニキなコニキふ

王コニキ欲コニキ行コニキ之コニキ則コニキ盍コニキ反コニキ其コニキ本コニキ矣コニキ。
コニキヤコニキうコニキかコニキらコニキひコニキ悔コニキをコニキあコニキるコニキ悔コニキどコニキとコニキなり

君コニキにコニキ政コニキをコニキおコニキこコニキなコニキひコニキたコニキくコニキおコニキもコニキりコニキ。それコニキが
 小コニキかコニキへコニキるコニキがコニキよコニキかコニキらコニキんコニキとコニキなり。

五コニキ畝コニキ之コニキ宅コニキ樹コニキ之コニキ以コニキ桑コニキ五コニキ十コニキ者コニキ可コニキ以コニキ衣コニキ帛コニキ
 矣コニキ。雞コニキ豚コニキ狗コニキ彘コニキ之コニキ畜コニキ無コニキ失コニキ其コニキ時コニキ。七コニキ十コニキ者コニキ可コニキ
 以コニキ食コニキ肉コニキ矣コニキ。百コニキ畝コニキ之コニキ田コニキ勿コニキ奪コニキ其コニキ時コニキ。八コニキ口コニキ之コニキ
 家コニキ可コニキ以コニキ無コニキ饑コニキ矣コニキ。謹コニキ庠コニキ序コニキ之コニキ教コニキ申コニキ之コニキ以コニキ序コニキ

悌之義。頌白者。不負戴於道路矣。走者
衣帛。食肉。黎民不饑。不寒。然而不王者。
未之有也。

此言禮を制し。海内を以て民を行くゆゑの
法なり。つとむるかに常に鈔と八口をよ
農夫八人をや。やうふをどれ百姓をいふ
なり。

孟子鈔卷之一終

